

2017 Japan National Team Report ” コーチ ”



報告者氏名	佐藤 麻衣子
大会名	2017 OP 級アジア・オセアニアチャンピオンシップ
開催地	香港
大会期間	9月29日～10月7日

- 帰国後1ヶ月以内に、JODA チームでまとめた上、海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
 1. このレポートを補足する資料として必要です(文中に貼り付けて下さい)
 2. 他国OP艇を接近して撮影する際には、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい

チャーター艇 メーカー	fares				
----------------	-------	--	--	--	--

気象について	毎日暑かったです。34度くらいになりました。朝、ザーツとスコールが降ったりしていたようです。
海面(湖面)の特徴や風の傾向	大会期間中は基本的に同様な風向から風が吹いていました。潮がとても強かったので、海面を岸に寄せていて、風がとてもシフティでした。潮が非常に強く、本音階が風向ではなくて、潮にたっていました。
帆走指示書内容で特記事項	特になし
コーチボートについて	今回はTURとシェアしました。こちらが10艇、あちらが5艇で、大会側が合計の艇数を考えてアレンジしてくれたようです。香港の法律で、ドライバーが同乗しないとイケなかったもので、常に3人でした。トルコのコーチはあまり英語が上手ではなかったのですが、大変いい方でした。ボートが最初古くて遅かったのですが、最後の2日で壊れて、新しいボートになり、快適でした。

以下、日本チームより上位の選手、国について記入して下さい

選手の特徴、体格	小柄な選手が多かったように思います。5月の合宿も事前合宿も風がなかったので、現地で初めて彼らの強風の走りを見ることになりました。まだまだ強風のクローズ・ランニングともに向上の余地が多いです。
機装品について	チャーターボートのテイラーエクステンションのジョイントが切れたり(他の国も切れていました)、ラダーのストッパーが効かずに、ラダーが勝手に取れたりしました。
セッティング等	強風への苦手意識が強い選手が多いようで、吹いてきたらしっかりとスプリットポールをあげる、センターボードをあげる、レーキを変えるなどを十分に出来ない選手もいるように感じました。
海上での練習方法	基本的にはゲートスタートからのクローズ、アビームからのダウンウインドを中心に行いました。ゲートスタートは海外の選手とも行う機会が多いので、もっと練習しておく必要があります。
セーリング技術	要所要所は上手なことも多いですが、まだまだ上達できる(クオリティを磨く)ものがたくさんあります。特に強風下でのクローズホールド、ランニングはまだまだ上達の余地がたくさんあります。セッティングをしっかりと風に合わせているところも少し意識が低いように感じました。
戦術、戦略など	潮が強かったので、スタートラインの有利不利がすごくでてしまっていたのですが、混雑したところからスタートしていく！という強い気持ちと技術が少し足りなかったかもしれません。
日本選手が劣っていること	混雑したスタートの技術、混雑していても有利なところから出る根性、絶対勝りたいと思う強い気持ち
日本選手が勝っていること	スタートで、混んでいるところではなくて、他に何か解決策を探せるところ。礼儀正しいところ。フレンドリーなところ。
日本チームとしての課題	選手たちはほとんどが海外のレースが初めてだったこともあり、すこし奥手な印象を受けた。しかし、この経験をしっかりと来年以降の海外レースや国内の大会で活かせるように、何が必要かしっかりと考えること。 楽しかった、ということだけで終わらせないこと。 自分自身のいろんなことをしっかりと自分でできるようになること。(父兄がいろいろと手を出さないこと)
JODA への要望	ぜひ、指導者向けの講習会などを充実してもらいたいです。
その他	アジア選手権に初めて帯同しましたが、アジア諸国ならではのいい塩梅みたいなのがありました。監督、國代表、サポーターのみなさんもととてもバランスよく、いい大会になりました。

ご協力ありがとうございました
JODA 海外派遣委員会